

問1 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2024年 鳥取県公立入試 類似)

1. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
2. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
3. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。
4. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。

問2 5世紀頃、大和政権は近畿地方から遠く離れた地域まで勢力を拡大しました。各地の有力者の墓（古墳）から、当時の王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀が発見されている事実は、当時の政治体制についてどのようなことを示していますか。その説明として最も適切なものを選びなさい。 (2017年 愛知県公立入試 類似)

1. 仏教の伝来によって、全国の有力者が同じ信仰を持つようになったこと
2. 征夷大將軍が派遣され、東北地方まで完全に平定されたこと
3. 地方の有力者が、大和政権を介さず独自に大陸と外交を行っていたこと
4. 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと

問3 5世紀の大和政権は、朝鮮半島から得た鉄資源をどのように活用して国内の支配を広げたとされていますか。当時の状況を説明したものとして最も適切なものを選んでください。 (2019年 群馬県公立入試 類似)

1. 鉄製の大型船を建造して中国の唐と直接貿易を行い、最新の法制度を取り入れることで中央集権化を進めた。
2. 鉄製の貨幣を鑄造して全国に流通させ、租・庸・調の税制を確立することで経済的に支配した。
3. 鉄製の武器や鎧を量産して軍勢力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。
4. 鉄製の鏡や装飾品を大量に作り、それらを各地の豪族に配ることで宗教的な権威を認めさせた。

問4 古墳時代の日本列島において、大陸から移住した渡来人が果たした役割と、彼らがもたらした文化的影響について述べた文として正しいものを次の中から選びなさい。 (2019年 岡山県公立入試 類似)

1. 鉄砲の伝来に寄与し、戦国大名の戦い方や城の構造に劇的な変化をもたらした。
2. 青銅器を用いた祭祀の道具を伝え、卑弥呼が統治する邪馬台国の成立を助けた。
3. 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。
4. 稲作の技術を初めて伝え、狩猟・採集中心の縄文文化から弥生文化への転換を促した。

問5 古代日本における漢字の伝来とその影響について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。大陸から移住してきた人々の活動や、宗教的背景を踏まえて選びなさい。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)

1. 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に用いた。
2. 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。
3. 渡来人が仏教の經典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。
4. 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。

問6 5世紀ごろ、朝鮮半島における勢力争いや戦乱を避けて日本列島へ移住し、須恵器の製作や金属加工、土木などの高度な技術、および漢字や儒教を伝えた人々を何と呼びますか。 (2026年 高知県公立入試 類似)

1. 倭寇
2. 渡来人
3. 朝鮮通信使
4. 防人

問7 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、鉄器の製作、須恵器の生産、さらには漢字や仏教などの高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。 (2017年 徳島県公立入試 類似)

1. 防人
2. 弥生人
3. 渡来人
4. 遣唐使

問8 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王」という称号が刻まれています。これと同様の称号が記された鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも出土していることから推測できる、5世紀後半の日本の政治状況として最も適切な説明を選んでください。 (2021年 大阪府公立入試 類似)

1. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。
2. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。
3. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。
4. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。

問9 法隆寺などの寺院が建立され始めた時期、日本の歴史的背景における建築物の変遷について説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2022年 岡山県公立入試 類似)

1. 律令制度の確立により、すべての有力者は墓造ることを禁止され、代わりに都へ移住することが義務付けられた。
2. キリスト教の伝来により、各地の有力者は伝統的な墓の形式を捨て、教会を模した石造りの建築物を好むようになった。
3. 仏教の伝来にともない、それまで権威の象徴であった有力者の巨大な墓に代わって、寺院が建立されるようになった。
4. 狩猟採集の生活から稲作を中心とする生活へ変化したことで、共同体の食料を保管するための高床倉庫が寺院へと発展した。

問10 5世紀頃、大和政権の王（倭の五王）が中国の南朝へ繰り返し使者を送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。 (2020年 香川県公立入試 類似)

1. 中国の北朝から公式に仏教を取り入れることで、鎮護国家の思想に基づいた国づくりを行うため。
2. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めさせ、鉄資源の確保などの面で他国より優位に立つため。
3. 隋に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して中国の進んだ律令制度を学ぶため。
4. 唐の勢力拡大に対抗するため、朝鮮半島の百濟や新羅と結んで軍事同盟を強化するため。

問11 4世紀ごろから大和政権と密接な関係を築き、朝鮮半島の南西部に位置していた国を何といいますか。この国は、五経博士による儒教の伝達や、日本への仏教伝来など、大陸文化を日本へ伝える窓口としての役割を果たしました。 (2020年 熊本県公立入試 類似)

1. 魏
2. 高句麗
3. 新羅
4. 百濟

問12 4世紀ごろ、近畿地方の有力な豪族たちが中心となって組織した大和政権において、各地の豪族を従えていた最高権力者の称号は、当時何と呼ばれていましたか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 大王（おおきみ）
2. 執権
3. 將軍
4. 天皇

問13 古墳時代に朝鮮半島から渡来人が渡ってきた時代の文化についての説明として、渡来人が伝えた土器の特徴を表しているものはどれですか。 (2025年 岩手県公立入試 類似)

1. 薄手でかたく、赤褐色をした弥生土器
2. 表面に縄目の文様がつけられた深鉢形の土器
3. 高温で焼かれた、かたくて灰色の須恵器
4. 低温で焼かれた、あつ手で褐色の縄文土器

答え合わせ・解説

問1	答え 4 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問2	答え 4 大和政権の権力が、九州から関東に及ぶ広い地域の有力者に及んでいたこと	大和政権は、軍勢力や外交力を背景に地方の首長たちと主従関係を結び、自身の統治体制に組み込んでいきました。有力者の墓から出土した銘文入りの鉄剣などは、地方首長が大和政権に従う代わりに、その土地の支配権を保証されたという政治的な結びつきを証明するものです。これにより、当時の日本列島において広域的な政治連合が形成されていたことがわかります。
問3	答え 3 鉄製の武器や鎧を量産して軍勢力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。	5世紀の歴史年表や出土品からは、大和政権が朝鮮半島から得た鉄を利用して武力を強化し、その力を背景に関東や九州の豪族を従えていった過程が読み取れます。武人の埴輪が鎧をまとった姿で製作されていることも、武力による支配体制が整えられていたことを裏付けています。
問4	答え 3 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。	渡来人は文字（漢字）の知識だけでなく、養蚕、機織り、土木技術、須恵器の製作など、当時の日本にはなかった高度な技術を伝えました。特に漢字を用いた文書作成能力は、ヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、大陸の諸国と外交交渉を行う上で欠かせないものとなりました。鉄砲は16世紀、稲作や青銅器は弥生時代以前に伝わったものであり、時期や内容が異なります。
問5	答え 3 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。	朝鮮半島や中国大陸から移住した渡来人によって、漢字は仏教の経典とともに日本に伝えられました。当時、文字を持たなかった日本列島の人々は、これを受け入れることで歴史の記録や公的な文書の作成、そして宗教の理解を深めることが可能になり、日本の文明化に大きな影響を与えました。
問6	答え 2 渡来人	4世紀から5世紀にかけての朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の三つの国が勢力を争う不安定な情勢にありました。この動乱を逃れて日本に渡ってきた人々は、大和政権に仕えて特定の技術を持つ集団として組織され、それまでの日本にはなかった最新の技術や文化を広める重要な役割を果たしました。これにより、日本の生産力や政治的な組織化が大きく進みました。
問7	答え 3 渡来人	4世紀以降、大陸での戦乱などを背景に、朝鮮半島や中国大陸から優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ移り住みました。彼らは金属加工や土木技術、機織りなどの実用的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教といった学問・宗教も伝え、古代日本の文化や政治の発展に大きな役割を果たしました。
問8	答え 2 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。	遠く離れた埼玉県の新井山古墳と熊本県の江田船山古墳の両方から、同一の大王（ワカタケル大王）の名を記した遺物が出土したことは、その大王を中心とする大和政権の権威や支配力が、すでに関東から九州まで広範に及んでいたことを裏付ける有力な証拠となっています。
問9	答え 3 仏教の伝来にともない、それまで権威の象徴であった有力者の巨大な墓に代わって、寺院が建立されるようになった。	古墳時代から飛鳥時代にかけて、支配者の権力を誇示する方法に大きな変化が生じました。大陸から伝わった仏教を政治に取り入れる動きが強まる中で、それまでの伝統的な古墳（墓）に代わり、高度な技術を用いた寺院を建立することが有力者の新たな権威の象徴となりました。法隆寺などの建立はこの歴史的な流れを反映しています。
問10	答え 2 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めさせ、鉄資源の確保などの面で他国より優位に立つため。	5世紀の大和政権は、国内での支配力を強めるとともに、大陸から伝来する鉄資源を安定して確保しようとしていました。そのために中国の南朝（宋など）へ朝貢を行い、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権や政治的な地位を正式に認めさせることで、周辺諸国に対して有利な立場を得ようとした背景があります。
問11	答え 4 百済	朝鮮半島の南西部に位置した百済は、半島の主導権争いの中で大和政権と友好関係を深めました。この交流を通じて、漢字、儒教、仏教といった高度な大陸文化が日本に導入され、日本の古代国家の形成に大きな影響を与えました。
問12	答え 1 大王（おおきみ）	古墳時代の大和政権（ヤマト王権）において、近畿地方を中心とした支配を広げた最高権力者は「大王」と呼ばれました。この称号は、7世紀後半ごろから「天皇」という言葉が定着するまで、中国の王朝との外交や国内の統治において用いられました。将軍や執権は武家政権の役職であり、時代の異なる用語です。
問13	答え 3 高温で焼かれた、かたくて灰色の須恵器	渡来人は朝鮮半島から新しい技術をもたらしました。その一つとして、窯を用いて高温で焼き上げる、かたくて灰色の須恵器をつくる技術が伝えられました。